

いま！心に感動が甦る

特集

トークで綴る世界の名曲を、オペラ歌手岡村喬生コンサートが11月7日、三隅中体育館で開催されました。

オペラとは……800有余人が緊張する中で、オープニング曲「波浮の港」バスの声量がまず胸にじんときます。次に、ロシア民謡「春の夢」、心がやわらいでゆきました。一曲一曲わかりやすく解説される中で、ムードも高まり、笑いもありました。完全にステージに引き込まれ、感動しました。

そこで入場者より、コメント・生の声をお届けします。



山中タミ子さん
(豊原)

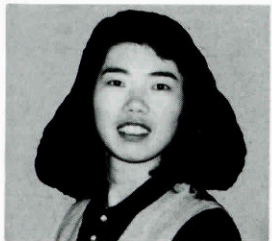
文 化の秋、三隅の地に日本を代表する世界的オペラ歌手、岡村喬生さんが来町ということになり、はじめての出合いに興味と期待でいっぱいだった。広い体育館には老若男女満席の状態でざわついていて、幕が上がって開演となるや水を打ったような静けさ、観客の目耳体が一点に集中し歌声に魅了されてしまった。あの体からどうしてあのような声がひびくのだろう。又多くの人をひきつける力が貯えられているのだろう。

本物にふれることの少ない当地で貴重なひとときを過ごすことができた。こうしたすばらしいチャンスに又恵まれることを希望する。



谷村 博祐さん
(湯免)

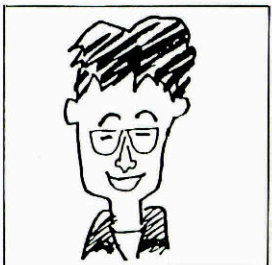
か ん詰めの食品よりも生の食品の方がおいしく、音楽でもテレビ、ラジオから流れる音楽より生の演奏を聞く方がよりすばらしく美しい。だが北浦の三隅町で生演奏を聞く機会は夢を見るにひとしい。国際的な歌手になると大都会の大ホールでしか聞かれない。旅費はかかるし入場料は高い、加えて参加する時間もかかる。最近町内のクラシック愛好者が急増し今回のコンサートに一千名近い人が参加していた。これは北浦での音楽会では、めずらしくよろこばしい、願わくば町民の力を發揮して文化会館を建設し大企業の援助がなくても生演奏が年に数回町民が聞けたらと思っている。



森清 珠美さん
(兎渡谷)

館 内に響きわたる声、威風堂々とした体軀は、やはり、オペラ歌手。臨場感いっぱい迫ってくる声は、本物の本物。予想以上である。しかし、その声にも増して魅力的なのは、氏の軽妙な語りである。以前から持っていたクラシック・コンサートの堅苦しさを、すっかり拭きってしまうような楽しいおしゃべりである。しかも、音楽には何の知識も持たない私でさえ曲ごとにイメージをふくらませることが出来、曲が何倍にも楽しめるのである。

短時間ではあったが、まさに音楽の世界一周旅行を満喫することが出来た。



大草 博輝さん
(豊原)

秋 夜のふさわしい岡村喬生さんのコンサートは世界のテナーの心温まるトークと情熱溢れんばかりの歌声が八〇〇名ちかい音楽ファンを魅了したように思います。

特に岡村さんの優しさや、あったかさは、幼い時にお母さんと育まれた音楽の素朴な楽しさにあつたことを知り、心なんだのは私だけでしょうか。

昨今では、何かと一つのレールに一つの型に嵌めようとするところが多々あるようですが、音楽の道に限らず子供たちに物事の本当の楽しさすばらしさを自ら知ることのできる環境づくりを……。

親としてできればと思いません。

本物の魅力をもう一度

町民の力で文化会館を！

オペラで世界一周旅行

自ら知ることのできる環境づくりを